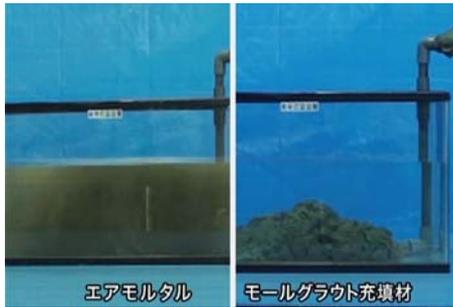


[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

提案書	
技術分野	④ 建屋内の汚染水管理 (建屋内止水、地盤改良等)
提案件名	可塑性充填材による建屋内充填
提案者	三井住友建設株式会社
<p>1. 技術等の概要 (特徴、仕様、性能、保有者など)</p> <p>当社では、トンネル覆工背面の空洞充填や採石坑道閉塞等のため、可塑性充填材を大容量で、超長距離を圧送可能なモール・グラウト工法を開発しました。本工法は、日本で始めて 3km 以上の超長距離圧送を実証しただけでなく、時間 18m<sup>3</sup>/h 以上の大容量圧送性を両立させた工法です。</p> <p>本工法は、以下のような特長から配管等が輻輳するタービン建屋を水中下で充填することが可能と考えます。当該工法で採用した可塑性充填材は、水中で分離することなく確実に固化し、固化後の非溶出性は蛇口等の水道機器と同等である証明を得ております。さらに、充填性試験により、自然流下で H 鋼等の異物の周囲を隙間なく充填できることも確認しております。</p> <p>充填工法は、A 材・B 材を別々に混練り後、それぞれ配管内を圧送し、充填直前で混合攪拌して充填する 1.5 ショット法と呼ばれる工法です。モール・グラウト工法では、攪拌混合に専用のリミキシングポンプを用いる点に特徴があります。これにより、2 材の攪拌・混合が確実に行え、充填圧・充填量の調整が容易なだけでなく、混合後も 100m 程度まで圧送することが可能になります。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p style="text-align: center;">水中投下時の分離の状況</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p style="text-align: center;">自然流下時の H 鋼周辺充填状況</p>	
<p>2. 備考 (以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発・実用化の状況 (国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む) トンネル覆工背面の空洞充填工事などで 8,000m<sup>3</sup> 超の実績があります。</li> <li>・開発・実用化に向けた課題・留意点           <ol style="list-style-type: none"> <li>1) リミキシングポンプから汚染環境下にある建屋内までの配管方法が未定です。また、配管経路の選定に当たっては、リミキシングポンプからの距離が 100m 未満となるよう検討する必要があります。</li> <li>2) 建屋内の機器や配管の周囲を隙間なく充填するためには、急速な充填で空気を取り込まないように、充填速度を調整する必要があります。このため、建屋内で充填状況をモニタリングする手法を開発する必要があります。</li> </ol> </li> <li>・その他 (特許等を保有している場合の参照情報等) モール・グラウト工法は、株式会社ケー・エフ・シーと共同開発した工法です。</li> </ul>	

(備考) 技術提案募集の内容 (6分野)

- ① 汚染水貯蔵 (タンク等)
- ② 汚染水処理 (トリチウム処理等)
- ③ 港湾内の海水の浄化 (海水中の放射性物質の除去等)
- ④ 建屋内の汚染水管理 (建屋内止水、地盤改良等)
- ⑤ 地下水流入抑制の敷地管理 (遮水壁、フェーシング等)
- ⑥ 地下水等の挙動把握 (地下水に係るデータ収集の手法、水質の分析技術等)